

# ONLINE COURSE DESIGN GUIDEBOOK

eラーニングではじめよう。

オンライン  
授業設計  
ガイドブック

2017.2.28



## はじめに

本書ははじめてオンライン授業（いわゆるeラーニング）を設計する方を対象とした手引書です。本書で示す手順に沿って、解説を読みながら各種ワークシートに必要事項を書き込むことで、「オンライン授業設計ガイドライン\*1」に基づいた授業設計ができます。

あなたが科目担当教員で、eラーニングコース開発スタッフが別途いる場合は、本書の手順にしたがって完成させる「授業設計書」をそのまま手渡しすることで、スムーズな開発をしてもらえるでしょう。また、ご自身でコースを開発する場合は、別途用意している「サンプルコース」や「コーステンプレート」を参照することで、授業設計書に基づいたeラーニングコースを開発できるでしょう。

一方で、あなたが科目担当教員ではなく、eラーニングコース開発スタッフやその他支援者である場合には、本書を科目担当教員に手渡し、一緒に作業を進めるとともに、適宜、自組織の設計・開発手順について補足説明してください。本書の欄外には支援者向けのアドバイスもありますので、参考にしてください。

\*1 大学連携e-Learning教育支援センター四国では、「四国地区における5国立大学連携構想」において大学教育を共同実施するにあたり、教育の質保証の観点から「オンライン授業設計ガイドライン」を策定しました。下記をご参照ください。  
[http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/pdf/situhosyoWG\\_sekkei.pdf](http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/pdf/situhosyoWG_sekkei.pdf)

### 本書の使い方

まずは「オンライン授業の設計・開発ステップ」を読んで、全体の流れをつかみましょう。

新しい授業をオンライン授業として1から設計する場合には、

**ステップ0** を読んでオンライン授業のイメージをつかみ、シラバスを準備してください。具体的な設計手順は、

**ステップ1** から始まります。

**ステップ1** 以降では、

- ① まず、「解説」を読む。
  - ② 次に、「やってみよう!」にしたがって実際に指定のワークシートへ入力するなど、手を動かす。
- という手順で進めてください。

ワークシート類のダウンロードはこちらからどうぞ。

<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/organization.html#guidebook>





# C O N T E N T S

## オンライン授業の設計・開発ステップ

03

### ステップ 0

オンライン授業をイメージする

#### 0-1 オンライン授業の紙上体験

05

開講科目を知る

サンプルA(ディスカッション中心型)を体験する

07

サンプルB(小テスト中心型)を体験する

19

#### 0-2 シラバスを用意する

20

授業を通じて獲得して欲しいことを考える

21

どのような授業構成にするかを考える

22

### ステップ 1

学生に授業概要をどのように伝えるか考える

23

### ステップ 2

各回の授業を考える

26

### ステップ 3

A 開発スタッフにコンテンツ案を伝える

30

B 授業1回分のコンテンツを開発する

30

### ステップ 4

ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

31

A 「ここからスタート!」シート

32

B 「コース全体」シート

33

C 「ガイダンスコンテンツ」シート

34

D 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シート

36

E 「確認結果」シート

38

F 「ガイドライン」シート(参考)

39

## オンライン授業の設計・開発ステップ

本書では、下記に示すステップでオンライン授業を設計していきます。最初にオンライン授業のイメージを固めるため、サンプルをご覧ください(ステップ0-1)。次に授業の大枠を設計します。シラバスを作成済みの場合は、あらかじめお手元にシラバスをご用意ください。まだシラバスがない(新規科目)という場合は、ステップ0-2を参考にシラバスを作成しましょう。その後、ステップ1～ステップ2で授業の詳細設計をします。自分では開発しない(開発スタッフがいる)場合はステップ3Aを、自分で開発する場合はステップ3Bを参考にしてください。最後のステップ4で開発中のコンテンツがガイドラインに沿っているかチェックし、必要に応じて再設計しましょう。

### オンライン授業の設計・開発ステップ

#### ステップ 0

オンライン授業をイメージする  
(サンプルを見てシラバスを準備)



新しい授業の  
開発は  
こちらから

#### ステップ 1

学生に授業概要をどのように伝えるか考える  
ワークシート(1) ガイダンスページ設計書



既存科目を  
eラーニング授業に  
変えたい場合は  
こちらから

#### ステップ 2

各回の授業を考える  
ワークシート(2) コンテンツ開発指示書



開発スタッフがいる

自分で開発する

#### ステップ 3A

開発スタッフに  
コンテンツ開発指示書を渡す



#### ステップ 3B

授業1回分の  
コンテンツを開発する



#### ステップ 4

ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする  
ワークシート(3) オンライン授業内容確認シート



eラーニング  
授業が  
できている場合は  
こちらから

次の  
ページへ

おおむね達成

未達成が多い

コンテンツの開発&公開

前のステップへ戻って修正

## ステップ 4 ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

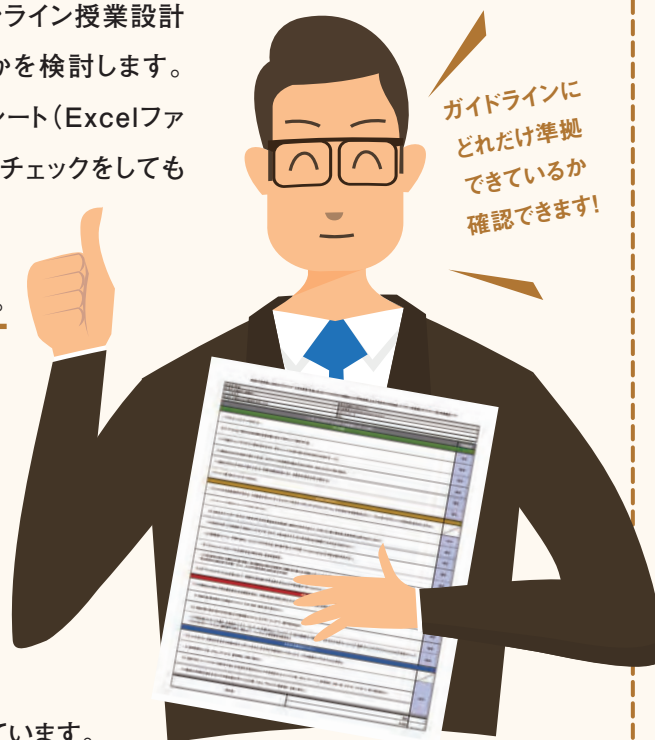
ここまで考えてきたオンライン授業が、「オンライン授業設計ガイドライン」に準じた質保証ができているかを検討します。「オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート(Excelファイル)」を使用して、自己チェックまたは誰かにチェックをしてもらいましょう。

確認シートを使う前に以下を用意してください。

**必須** 実際に開発したオンラインコース  
(開発途中で可)

**必須** 該当科目のシラバス

- ガイダンスページ設計書(もしあれば)
- コンテンツ開発指示書(もしあれば)



確認シートは、以下の6つのシートで構成されています。

**A** 「ここからスタート!」シートに入力

**B** 「コース全体」シートに入力

**C** 「ガイダンスコンテンツ」シートに入力

**D** 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シートに入力

**E** 「確認結果」シートに結果が出る!

**F**

「ガイドライン」シートで  
ガイドライン本文を  
チェック!

A～Dのシートに必要な項目を入力すると、Eのシートでガイドラインに準拠しているかが確認できます。  
Fのシートはガイドライン全文ですので、必要に応じて参照してください。

## ステップ 0

## オンライン授業をイメージする



### 0-1 オンライン授業の紙上体験

はじめてオンライン授業(eラーニング)を実施する場合、どんなものかよくわからず、不安もあるかと思います。この節ではフルオンライン(対面授業がない)サンプルコースをご覧ください。A先生、B先生になったつもりで紙上体験してみてください。

はじめてeラーニング科目を実施します!

### 開講科目を知る

そもそもどんな科目がeラーニングで開講されているのかな?  
各大学の開講科目を知りたいな。



A先生

(1) パソコンのブラウザソフトを起動し、「大学連携e-Learning教育支援センター四国 (<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp>)」のホームページにアクセスします。メニューから「開講科目」をクリックします。

TOP 事業概要 組織 **開講科目** お問い合わせ

大学連携e-Learning教育支援センター四国  
University Consortium for e-Learning, Shikoku Center

四国の国立5大学が相互に連携し、香川大学に大学連携e-Learning教育支援センター四国を設置するとともに、他の4大学にセンター分室を設置しました。そのe-Learning基盤を活用し、「四国地区における5国立大学連携構想」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図ります。

知ブラe

EVENT  
+ シンポジウム  
+ スキルアップ研修会

REPORT  
+ 知ブラe事業報告書

知ブラe科目  
受講者・受講希望者  
はコチラ

INFORMATION

UNIVERSITY

- 徳島大学 The University of Tokushima
- 鳴門教育大学 Naruto University of Education
- 香川大学 KAGAWA UNIVERSITY
- 愛媛大学 EHI UNIVERSITY
- 高知大学 Kochi University

(2) 開講科目一覧が確認できます。さらに、所属大学の履修案内ページに移動すると、LMS (Learning Management System:学習管理システム) へのログイン方法などの説明があります。

開講科目

**2016年度 開講科目一覧**

2016年度は14科目を共同開講します。

受講を希望する学生は下記の所属大学バナーをクリックし、それぞれの大学の履修案内のページに移動して、履修手続きを進めてください。

徳島大学の学生

鳴門教育大学の学生

香川大学の学生

愛媛大学の学生

高知大学の学生

UNIVERSITY

徳島大学  
The University of Tokushima

鳴門教育大学  
Naruto University of Education

香川大学  
KAGAWA UNIVERSITY

愛媛大学  
EHI ME UNIVERSITY

【前期開講科目】 (4月1日コンテンツ配信開始)

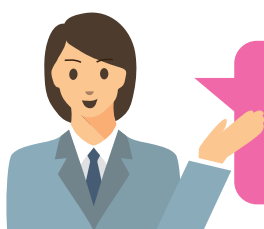
科目提供大学	科目名、担当者	単位数	備考
香川大学	「瀬戸内地域活性化政策」 村山卓	2	
	「瀬戸内海論」 原直行	2	
	「香川の文化と歴史」 原直行	2	

【後期開講科目】 (10月1日コンテンツ配信開始)

科目提供大学	科目名、担当者	単位数	備考
	「日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920 —四国の収容所を中心に—」	2	

各大学の履修登録方法、システムへのログイン方法、開講科目のシラバスなど

開講科目一覧



なるほど、センター四国のホームページに開講科目の情報があふね。

#### ●支援スタッフへのアドバイス

開発済みのコースがある場合は、科目担当教員へ実際のコースをいくつか見せてください。



## ステップ 0

## オンライン授業をイメージする

### サンプルA(ディスカッション中心型)を体験する



いろいろな科目がオンラインで開講されているようだけれど、実際はどんな中身になっているんだろう？講義ビデオを90分×15回分も用意しないといけないのかなあ。大変そうねえ。

典型的なオンライン授業例として、学生同士のディスカッションを中心としたサンプルコースをみてみましょう。以下は、徳島大学開講科目「モラエスの徳島」の例です。

(1) 以下はコーストップページです。学生は、最初に「学修ガイド(ガイダンスページ)」に進みます。





(2)「学修ガイド」では、授業の概要、教科書、スケジュール(各回の閲覧可能時期や課題締切日など)、成績評価などを説明しています。



(3) 授業1回分の内容は次の通りです。

**授業1回分**

今日の指定文献: 佐々木康子『モリスエの生涯とその作品』(p.196-221)

第1回授業

解説ビデオ

電子掲示板

(4) 学生は教科書の指定ページを読み、15分程度の解説ビデオを見ます。



(5) その後、学生は指定されたテーマでレポートを作成し、電子掲示板に投稿します。電子掲示板では、他の受講者が投稿したレポートを読み、コメントを返信します。たまに科目担当教員もコメントを投稿します。

**レポートに関する  
指示文**

**学生の投稿一覧**

ナビゲーション

管理

- フォーラム管理
  - 設定を編集する
  - ローカルに該当するルール
  - パーミッション
- リストア
- 試験モード
- メール購読ユーザを表示/編集する
- コース管理
  - ロールを切り替える
  - マイプロフィール設定
  - サイト管理

検索

ディスカッション

ディスカッション	ディスカッションの開始	返信	最新の投稿
第2回小試験		1	
第2回小試験		0	
第2回小試験		1	
第2回小試験		2	
第2回小試験		2	
第2回小試験		3	

[illegible]

(6) 第6回の後に中間試験、第15回の後に期末試験があります。中間試験と期末試験はレポート形式になっています。学生は、Word等でレポートを作成し、指定期限内にレポート提出先へ提出します。中間試験と期末試験のレポートは、他の受講生には見えません。

ナビゲーション

- 管理
  - 課題管理
  - ログ
  - コース管理
  - ロールを切り替える
  - 通年のロールに戻る
  - マイプロフィール設定
  - サイト管理

### 中間試験(レポート) 平成27年11月26日(木)から12月3日(木)10時まで

以下の2項目について、これまでの4課題を踏まえてA4ワードの標準設定で1ページ(約1200字)2~4枚程度にまとめてまたはPDFファイルで提出してください。

1. モリスの生涯とその時代を考察して下さい。ナーンとコンラッドとの類似点または相違点を述べること。
2. モリスは、なぜ日本に30年近く住み、後編にそのうち16年も暮らしたのだから、自分の考えを述べて下さい。

★締切:平成27年11月26日(木)から12月3日(木)10時まで

※締切後の提出は出来ません。

提出ステータス

提出ステータス	未提出
予定ステータス	未予定

[課題を追加する](#)  
あなたの提出に変更を加えます。

レポートに関する指示文

ここからレポートを提出



(7) 教員は提出されたレポートにコメントと成績をつけて学生に返却します。

The screenshot shows a Moodle assignment submission page. The URL is <https://moo.chi.tokushima-u.ac.jp/moodle/assign/view.php?id=2019&rownum=2&action=grade>. The page is titled "提出ステータス" (Submission Status). It shows the submission status, the student's name (中田ノボ), the submission date (2014年 12月 3日(休曜日) 03:35), and the submission file (中田ノボ.pdf). A pink box labeled "学生が提出したレポート" (Report submitted by the student) points to the submission file. Below this, the "評点" (Grade) section shows a score of 18.00 out of 20.00. A pink box labeled "教員の採点" (Teacher's grading) points to the score. At the bottom, the "フィードバックコメント" (Feedback comment) section shows a text area with a rich text editor. A pink box labeled "教員のコメント" (Teacher's comment) points to the text area. The text in the comment box is: "モラエスの基本的な生涯の流れを的確に把握しています。提供した資料を基に思っています。参考文献図書に直接当たって、補足的なことも加えていただければよかったかなと思います。モラエスが、なぜ、後編で18年過ごしたかについては、はっきりとした解答があるわけではありません。私たちが自分の人生を選択して定めてゆく上で、その節目ごとにその都度考えでゆく必要があるでしょう。" (Morae's basic life flow is accurately grasped. I think based on the provided materials. It would be good if you could refer to the reference literature directly and add supplementary information. I think Morae's reason for spending 18 years in the second part is not clearly answered. Since we choose and determine our lives at each stage, we need to think about it as we go along.)

(8) コース上には自己学修のための参考文献やビデオも用意しています。

The screenshot shows a course page with two sections: "モラエス経歴館について" (About Morae's History Museum) and "参考文献" (Reference Literature). The "モラエス経歴館について" section has a link to "モラエス館" (Morae's Museum). A pink box labeled "参考ビデオ" (Reference Video) points to this link. The "参考文献" section lists several books and articles. A pink box labeled "参考文献" (Reference Literature) points to this section. The list of references includes:

- ・岡村多希子『モラエスの終ーポルトガル人外交官の生涯』(彩流社、2000年)
- ・『モラエス表内(増補再版)』(徳島県立図書館)
- ・『ハーン、宮城正二訳『経典』(光文書文庫、昭和51年)
- ・『小島、小島凡共編『文学アルバム小島八重』(恒文社、2000年)
- ・『コンラッド』20世紀英文学賞内3(研究社、1989年)
- ・『大英図書館』シリーズ『作家の生涯』Joseph Conrad
- ・『イノセント』『自伝の過剰』(上・下) (朝日新聞、東京:朝日新聞社、1987年)
- ・『安部公房』(他人の顔)(新潮文庫)
- ・『映画』『エイリアン』(20世紀フォックス、1979年)

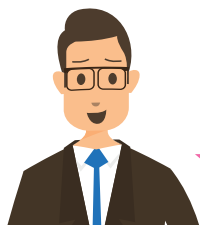


授業1回分につき90分のビデオが必要なわけではないのね。  
ビデオ+配布資料+レポート、のようにいくつかの活動を組み合わせて  
授業1回分にすればいいのね。

## ステップ 0

## オンライン授業をイメージする

### サンプルB（小テスト中心型）を体験する



B先生

私の科目では、基礎知識の修得を目指している。学生同士で正解を共有されると困るから、テーマを設けてディスカッションをするやり方は不向きだ。別の授業方法はないのだろうか？

もう一つの典型的なオンライン授業例として、小テストを中心としたサンプルコースをみてみましょう。以下は、高知大学開講科目「海洋基礎生態学」です。

(1) 以下はコーストップページです。学生は、最初に「この授業について(ガイダンスページ)」に進みます。

高知大学 moodle2016

### 海洋基礎生態学

Home > 農林海洋科学部専門科目 / 農学部専門科目 1学期開講 > 海洋基礎生態学

ナビゲーション

- Home
- ダッシュボード
- サイトページ
- 現在のコース
  - 海洋基礎生態学
    - 参加者
    - ページ
    - 海洋基礎生態学
    - ★この授業について (はじめにクリックしてください) ★
    - 各回へのリンク (講義目次)
    - 1. 何を学ぶのか? / 2. 物質循環の概要 (1)
- マイコース

活動

- フォーラム
- リソース
- 小テスト

最近の活動

2016年 12月 7日 (水曜日) 18:03 以来の活動

最新の活動詳細

新しい活動はありません。

メッセージ

未読メッセージはありません。

メッセージ

管理

### 海洋基礎生態学

「海洋基礎生態学」へようこそ！ 海洋環境はまだ知られていない事が多くある世界です。思いもよらないことが起こっている海洋生態系の興味深い側面、そしてその中の物質循環で大活躍する微生物の生態と役割について一緒に勉強してみませんか。

詳しくは、海洋基礎生態学シラバスをご覧ください。(別ウィンドウで開きます)

担当教員 深見公雄

お知らせ

受講生のみなさんへのお知らせを投稿します。

講義についての質問等があれば、ここへ書き込んでください。

★この授業について (はじめにクリックしてください) ★

ファイル 6 ページ 1

### 各回へのリンク (講義目次)

- 1. 何を学ぶのか? / 2. 物質循環の概要 (1)
- 3. 物質循環の概要 (2)
- 4. 有機物の生産 (1) (2)
- 5. 有機物の生産 (3) (4)
- 6. 有機物の生産 (4) (5)
- 7. 有機物の生産 (6) (7)
- 8. 有機物の生産 (8) (9) / 9. 備忘 (1)
- 10. 備忘 (2) (3) (4)
- 11. 有機物の分解 (1) (2) (3) (4)
- 12. 海水中に存在する有機物 (1)
- 13. 海水中に存在する有機物 (2)
- 14. 海洋粒子による物質の給付・輸送 / 15. 海洋生態系
- 16. 窒素(N)の循環
- 17. リン(P)の循環
- 18. 硫黄(S)の循環

(2)「学修ガイド」では、授業の概要、教科書、スケジュール(各回の閲覧可能時期や課題締切日など)、成績評価などを説明しています。

160329 海洋基礎生態学 学...

https://moodle.cc.kochi-u.ac.jp/2016/pluginfile.php/14957/mod\_resource/content/7/

海洋基礎生態学 学修ガイド

**はじめに**

この科目では、海洋生態系における有機物の低次生産・消費・分解・無機化のメカニズムを解説したあと、このような海洋の物質循環に影響を与える環境要因はなにか、健全な海洋環境とはどんなものか、また海洋生態系のバランスが崩れるとどのような影響が出始めるのか、それを防ぐにはどうすればよいのかといった環境保全について考える。

**詳しくは、以下のシラバスをご覧ください。**  
海洋基礎生態学シラバス(別ウィンドウで開きます)

**配付資料について**  
教科書は用いない。資料を配付する。

**成績評価について**  
毎講義終了時に課す小テストの結果を評価の30%配分とする。すべての講義終了後に期末試験を実施し、その結果を評価の70%配分とする。小テストの結果と併せて、成績評価とする。

**授業について**  
各回の授業はe-learning形式で実施する。ただし、期末試験については、対面試験での実施となる。

**授業の構成**

1. この授業(コース)は3つのブロックで構成され、各ブロックはそれぞれ数回のモジュール(講義の1回分に相当)で構成される。

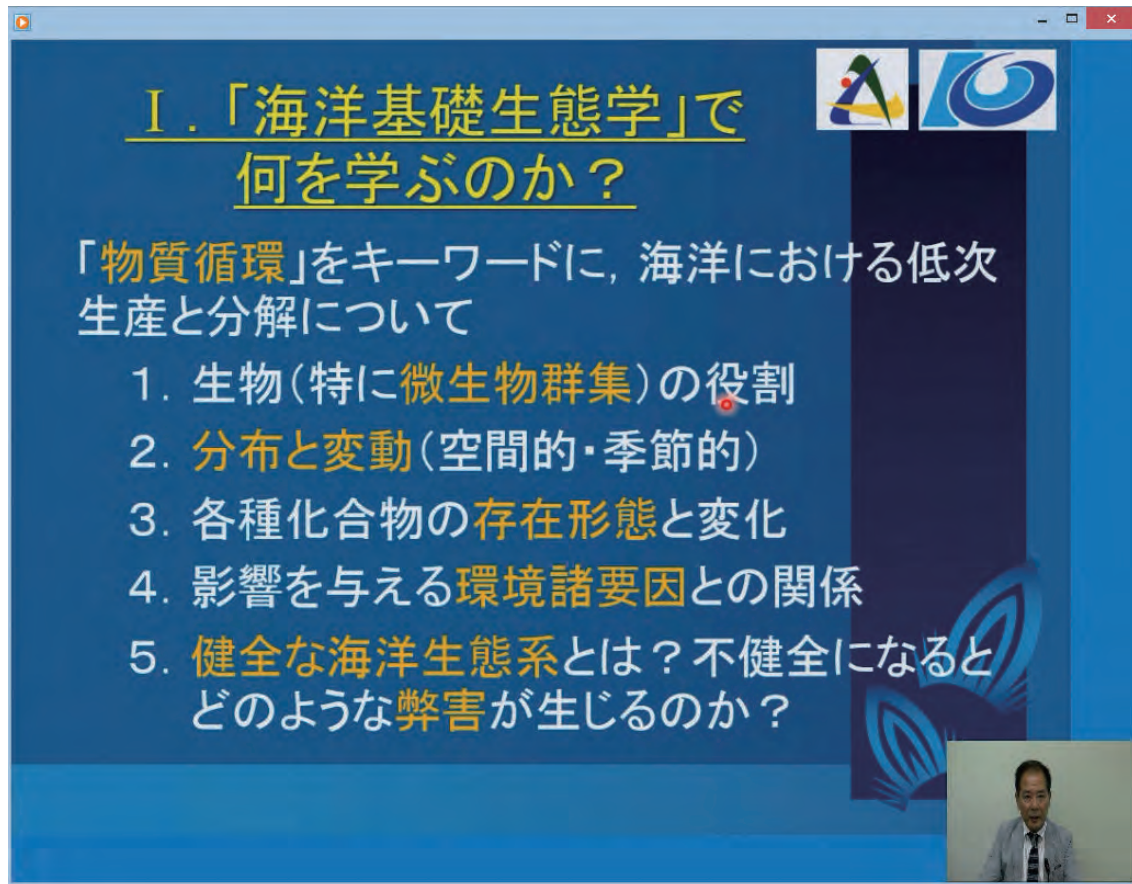


(3) 授業1回分の内容は次の通りです。

The screenshot shows a Moodle course page for '高知大学 moodle2016'. The course title is 'I 何を学ぶのか？／II 物質循環の概要（1）'. The page is divided into several sections, with annotations explaining their purpose:

- 授業1回分** (Lecture 1 session): Points to the main content area of the course.
- 手元に置くべき配布資料** (Materials to be kept at hand): Points to the '第1回資料' (Lecture 1 materials) section, which includes a link to 'プリントアウトし、必ず手元に置いて講義を聞いてください。' (Print out and bring to the lecture).
- 解説ビデオ** (Explanation video): Points to the 'I「海洋基礎生態学」で何を学ぶのか？（ビデオ5:16）」 (Video 5:16) link.
- 確認用テスト** (Confirmation test): Points to the '第1回 パート1 確認テスト' (Lecture 1 Part 1 Confirmation Test) link.
- 複数の学習パート** (Multiple learning parts): Points to the '第1回 パート2 確認テスト' (Lecture 1 Part 2 Confirmation Test) link.
- 1回分の学習が終わったら記述式ミニレポートを提出** (After completing 1 session of learning, submit a written mini-report): Points to the '第1回 ミニレポート' (Lecture 1 Mini-report) link.
- ミニレポート提出後、提出の自己申告で次の回へ進める** (After submitting the mini-report, progress to the next session by self-declaring submission): Points to the '第1回 ミニレポートの提出' (Lecture 1 Mini-report submission) link.
- 提出期限後にミニレポートへの講評を掲示** (After the submission deadline, post comments on the mini-report): Points to the '第1回 ミニレポートの講評' (Lecture 1 Mini-report review) link.

(4) 学生は配布資料を手元に置き、10～20分程度の講義ビデオをみます。

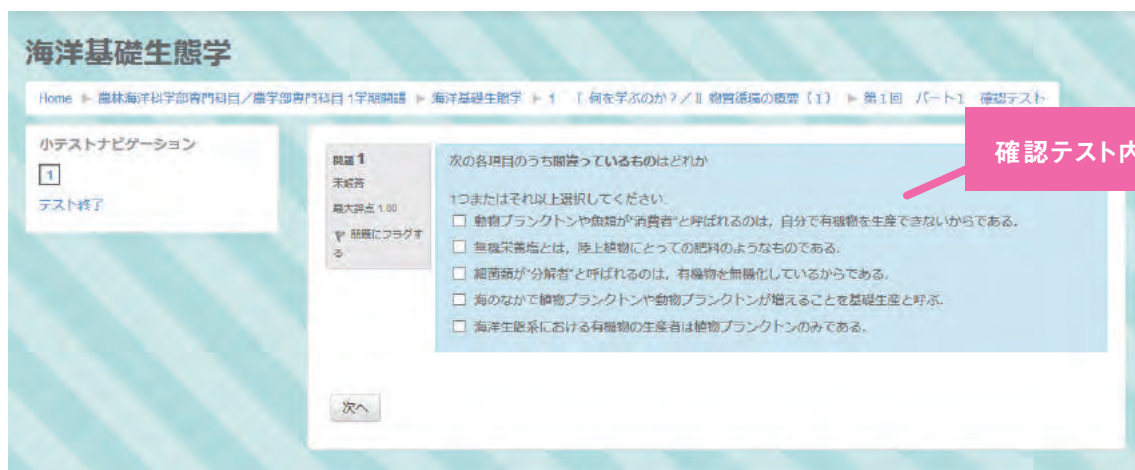


I. 「海洋基礎生態学」で  
何を学ぶのか？

「物質循環」をキーワードに、海洋における低次  
生産と分解について

1. 生物(特に微生物群集)の役割
2. 分布と変動(空間的・季節的)
3. 各種化合物の存在形態と変化
4. 影響を与える環境諸要因との関係
5. 健全な海洋生態系とは？不健全になると  
どのような弊害が生じるのか？

(5) 講義ビデオ視聴後、学生は確認テストを受験します。





(6) 複数パートの学習し、各確認テストに全問正解後、学生は小テスト(記述式のミニレポート)を受験できます。



(7) 小テスト提出後、提出を自己申告し、次の回へ進みます。



(8) 提出締切後、教員は提出されたミニレポートを採点し、講評を記述します。



(9) 第15回の後に期末試験があります。



授業1回の中に何度か確認テストがあると、理解が確実になりそうだね。  
各回最後の記述式テストとその講評によって、  
学生との直接的なやりとりもできるな。

私の科目の場合、毎回の授業ではビデオ+小テストを基本にするとよさそうだ!



## ステップ 0

## オンライン授業をイメージする

### 0-2 シラバスを用意する

オンライン授業のイメージをつかめたでしょうか。次の準備はシラバス作成です。シラバスを作成済みの場合、お手元を用意してください。電子ファイル（Word等）でご用意いただくと、これ以降の作業はワークシートにコピー＆ペーストするだけ済むことが多くなるでしょう。シラバスがある場合はステップ1へ進んでください。

まだシラバスがないという場合は、巻末付録のシラバステンプレート（入力シート）をご用意ください。そして、次ページへ進んでください。

●支援スタッフへのアドバイス  
シラバステンプレート、  
シラバスチェックシート等を  
科目担当教員へ  
渡してください。

1. 開講年度	2017	2. 開講学期	後期
3. 開講学部・学科等 ／区分等	一般教養教育科目部	4. 授業形態／授業種 別	講義（約100分）や資料による学 習で150分
5. 授業科目区分／科目 区分／科目区分／ 区分等	歴史と文化	6. 3Pコード／分野コード ／科目ナンバリング	
7. 科目名／科目英名 ／英名	日本語名 日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920 [漢文名] German Prisoners of War in Japan 1914-1920		
8. 副題（日本語・英 語）	[日本語] 西国の収容所を中心に [漢文名] Focusing on Camps in Shikoku		
9. 担当教員名（教員 ローマ字表記）	[日本語] 戸口 慶治 [ローマ字] 186, 86111		
10. 時間割コード／年 度コード／授業コード		11. 星数	
12. 単位数	1	13. 単位区分／単位区 分	
14. 対象学生	全学部全学科	15. 対象年度／区分等 ／授業形態年度	全学部全学科
16. 曜日・時間		17. 履修年	
18. 履修前提科目	各大学 学生向け 履修大学 学生向け	19. 履修科目（履修科 目コード番号）	各大学 学生向け 履修大学 学生向け
20. 授業のキーワード ／英文キーワード（3 つ以上必ず入力）	捕虜、第一次世界大戦、青島（サンタオ）、ドイツ		
21. 授業概要	第一次世界大戦における日本の青島攻勢により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に送られた。とりわけ他国に送られた捕虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地 元住民との交流が盛んにおこなわれ、彼らによってペーゲンゲンの第九交響曲全曲が日本で はじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所一帯に西国の収容所における捕 虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹 介する。また、これらについて、日独交際史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテクストの中で、 多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生にも講義やインタビ ューによるお話をさせていただいたり、関連の場所を訪れたりする。		
22. 授業の目的及び 主眼／授業科目の主 眼	第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容と いう状況を手帳通りに、戦争や国際文化交流について考察のきっかけとする。		
23. 授業の到達目標 ／学習課題	1. 人口に誇美した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の 諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。 2. 当時の日本による捕虜待遇や捕虜に送られる日独文化交流を、より広い社会的、経済的なコン テクストの中で位置づける。 3. レポート提出を通じて、学術的文章の書き方の基礎を身につける。		
24. ティポロ・オリシ ン（卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に關する項 目）			
25. カリキュラムマ ップ（授業科目の主 眼・授業科目の到達目 標とカリキュラムマ ップ）			
26. 授業スケジュール ／修 算計画並びに授業及 び学習の方法	1. 導入。授業を始める。 2. 日独交際史概略。幕末から第一次世界大戦まで。 3. ドイツによる租借地青島の歴史と日本軍の青島攻勢。 4. 九州の収容所（久留米、福岡、熊本、大分） 5. 中国・正統の収容所（旅順、青島、張家口、大連） 6. 関東・東部の収容所（名古屋、静岡、東京、栃木） 7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も送られ、所長はカナブン。 8. 九島収容所。音楽活動と娯楽の奨励。 9. 徳島収容所。交際所新聞「トクシマ・アソシエイト」 10. 収容所生活（1）。収容所新聞「デイ・バックス」、活版屋と印刷機。 11. 収容所生活（2）。美術工芸委員会、スポーツと遊園。 12. 日本に送られた記録簿。ボートとマイスター。 13. 帰国の経緯と船内新聞「帰国報」。交際の復活。 14. 捕虜待遇の歴史（世界と日本） 15. 捕虜待遇の歴史（捕虜と「武士道」） 16. 定期試験（レポート）		
27. 授業後海外学習 にかかわる情報	各授業のビデオを見て、1）内容の自分なりのまとめ、2）感想ないし質問、3）質問、をA1- 後援度で書いてシステムで送付すること。質問については、特になし場合は書かなくてもよい。 以上毎回の授業に關する小レポートに加えて、授業で扱った事柄のひとつをテーマに選んで、2000 字以上で最終レポートを提出してもらふ。執筆時の留意点については、メッセージの欄を参照の こと。		
28. 成績評価の方法 と基準	上記の小レポートの合計が6割、最終レポートが4割の配分で評価する。各ポイントに達しない場合、 レポートの書き直しを指示する。		
29. 再試験の有無	各大学学生向け 履修大学学生向け	なし なし	
30. 授業の委員／先 行科目／受講人数 制限	受講人数制限 あり 香川大学20名・徳島大学20名・高松大学20名・愛媛大学20名		

## 授業を通じて獲得して欲しいことを考える

### 解説

eラーニングで授業を行う際も、通常の対面授業と同じように、何を教えるかを考えます。つまり、誰に、どんな内容を教えるか、そしてそれをどのように評価するかを最初に考えてください。初期段階で考えておく必要があるのは、授業を通じて学生にできる・わかるようになってほしいこと、そして、それをどのように確認(評価)することができるかです。

### ①何を教えるか?

教えたい内容の特徴やキーワードを書き出しながら、何を教えたいのか簡単に確認してください。

### ②対象は誰か?

教えたい内容を誰に教えるのかを確認してください。

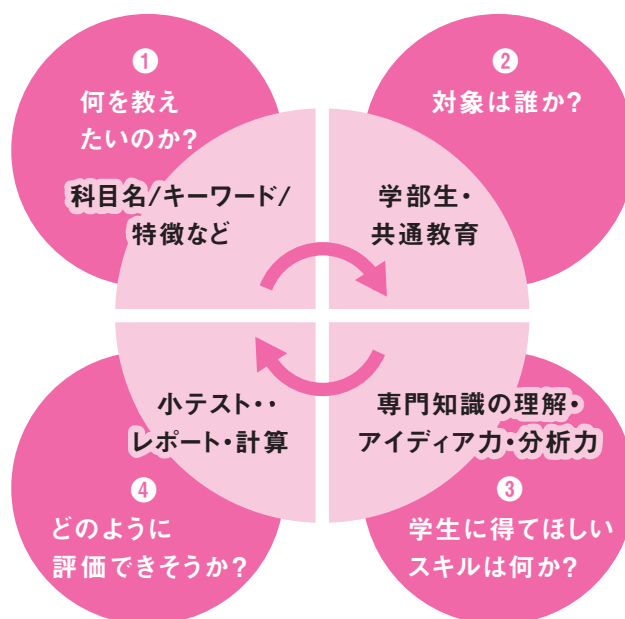
対象者を確認しておくことは、授業の難易度を調整するために重要です。学部生に共通教育の一科目として提供することが多いと思いますが、そうでない場合もあるでしょう。特に、学生が授業を受ける際に持っている前提知識を洗い出しておきましょう。

### ③学生に得てほしいスキルはなにか?

①でどんな内容であるかはある程度洗い出しましたが、ここでもう一步踏み込んで、先生の授業を受けた後、学生にどんな力を身につけてほしいか書き出してください。

### ④どのように評価できそうか?

③で考えた、学生に身につけてほしい力は、どのように評価することができるのか、考えてください。



最初に考えるべき4つのこと

### やってみよう!

シラバスがある場合、お手元のシラバスを見て、次の項目に書かれていることを確認しましょう。シラバスがない場合、お手元のシラバステンプレートに次の項目を入力しましょう。

- ① 何を教えるか?.....科目名、キーワード、概要
- ② 対象は誰か?.....対象者
- ③ 学生に得てほしいスキルはなにか?.....学習目標
- ④ どのように評価できそうか?.....評価方法

## どのような授業構成にするかを考える

### 解説

ある程度、授業全体を通じて獲得して欲しい内容についてのイメージがいたら、具体的にどんな授業構成にするかを考えます。どのような内容を、どのような順番で教えるかを考えます。授業回のタイトルを考えることに相当します。その際のポイントは、授業の内容と評価の内容がマッチしているかどうか一緒に考えることです。

#### ① 授業回のタイトルに相当する内容をリストする

教えたい内容を書き出します。この段階では、順番などは考えずとりあえず授業回に相当する内容を書き出してください。

#### ② 授業で学習した内容の理解度をどのように確認するかを考える

前ページの④「どのように評価できそうか？」で考えた評価内容を確認してください。もう少し具体的になりそうな部分があれば具体的にしてください。

#### ③ 授業内容と評価内容が対応しているか確認する

教えない内容が評価に含まれている場合：

評価からその内容を外すか、教える内容として前ページの①「何を教えるか？」のリストに追加してください。

教える内容であるが、評価には含まれていない場合：

評価項目を追加するか、前ページの①「何を教えるか？」のリストから削除してください。

#### ④ 授業回のリストを並び替える

①～③から出てきた、授業回のタイトルを教えやすいように並び替えてください。

関連する項目や、ストーリー性を意識して、どのような順番で授業を進めるとわかりやすくなるのか書き出してください。

### 毎回の授業タイトルから授業構成を考える

#### ① 授業回のタイトルに相当する内容をリストする

順序は考えず、授業回に教えたい内容を書き出します

#### ② 授業で学習した内容の理解度をどのように確認するかを考える

教えたいことに合った評価の仕方を選びます

#### ③ 授業内容と評価内容が対応しているか確認する

授業内容と評価内容とを対応させ、漏れや無駄がないかをチェックします

#### ④ 授業回のタイトルリストを並び替える

授業の流れを作ります。関連した内容を集めたり、話しやすい順番に入れ替えます

### やってみよう！

シラバスがある場合、お手元のシラバスの各回のタイトルを確認しましょう。シラバスがない場合、お手元の「[シラバステンプレート](#)」に各回のタイトルを入力しましょう。

## ステップ 1

# 学生に授業概要をどのように伝えるか考える

### 解 説

ここでは、シラバスの内容を、学生にわかりやすく伝える方法を考えます。対面授業では、第1回目の授業でガイダンスやオリエンテーションを行い、授業概要を口頭で伝えることが多いでしょう。オンライン授業でも、最初に学生に授業概要を伝えることはとても重要です。学生が本当にこの授業を履修するのか、最後まで取り組めそうかを判断する材料になるからです。オンライン授業に慣れていない学生にもどんな授業なのかをしっかり伝わるように、オンラインコース上に「ガイダンスページ」を作成します。以下の各項目について検討し、学生に伝わるガイダンスページを設計してみましょう。

#### 【ガイダンスページ設計書の項目】

1. 科目名
2. 担当教員
3. 学生から担当教員への連絡方法
4. システム等問い合わせ先  
eラーニングではシステム上のトラブルがつきものです。授業担当教員では対応が難しい場合も多いので、システム等の問い合わせ先を明確にしておきましょう。
5. シラバス参照先URI
6. 冒頭挨拶文  
簡単なウェルカムメッセージを2-3行程度で。自己紹介でもよいですし、写真やビデオを入れることもできます。
7. 科目概要
8. 教科書・配布資料・参考文献
9. 前提条件(前提科目)
10. 学習目標
11. 評価方法  
期末テストや毎回のテスト、ディスカッションなど、どのように評価をするのか考えます。
12. 学修の進め方  
各回でどんな活動をするのか考えます。
13. 教材の見せ方  
全ての授業回をまとめてオープンか、いくつかに分割してオープンかなどを考えます。eラーニングでは学習の進め方やスケジューリングに柔軟性をあたえられるように、ある程度まとめて教材をオープンすることをお勧めします。次項のスケジュールと合わせて検討してください。
14. スケジュール  
まずは、教務担当者などに、開講可能日と終了日を確認してください。その範囲内で、毎回の授業をどんなスケジュールで提供するかを考えてください。
15. その他の注意事項  
(学生に知らせたいことを書いてください)
16. 授業回タイトルと内容





★オンライン授業設計シート(Excelファイル)の「ガイダンスページ」シートを開いてください。

以下は記入例です(詳しくは配布のExcelファイルをご参照ください)。

	A	B	C	D	E	F
1		ガイダンスページ設計書			作成日	2015/5/8
2		以下の内容を埋めることで、Moodleのコース上にガイダンスページを作成できます。学生への説明を想定して文章を作成してください。				
3		図表がある場合は、別途、ファイルを添付してください。				
4	No	項目	内容		添付ファイル	備考
5	1	科目名	日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920 ―四国の収容所を中心に―			
6	2	担当教員	井戸 慶治			
7	3	学生から担当教員への連絡方法	<input type="checkbox"/> 担当教員の大学のメールアドレス <input checked="" type="checkbox"/> 4からメール転送とする <input type="checkbox"/> その他	「その他」の場合、アドレスを教えてください		
8				@		
9						
10	4	システム等問い合わせ先	els.support@tokushima-u.ac.jp			
11	5	シラバス参照先URL				
12	6	冒頭挨拶文(簡単なウェルカムメッセージを2-3行程度で。自己紹介でもよいですし、写真やビデオを入れることもできます。)	<input checked="" type="checkbox"/> テキスト文 <input type="checkbox"/> 写真を入れる <input type="checkbox"/> ビデオを挿入する <input type="checkbox"/> その他	検討していることを具体的に教えてください。		
13						
14						
15						
16			「日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920 ―四国の収容所を中心に―」へようこそ！  この科目は、第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容という状況を手掛かりに、戦争や国際文化交流について考察のきっかけとする科目です。			ここにも例示があるといいかも。シラバスの目的を入れるとか。
17	7	科目概要 (シラバスがある場合はシラバスからコピーしてください)	第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所―特に四国の収容所―における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介する。また、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテキストの中で、多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生にも講義をしていただく。			
18	8	教科書・配布資料・参考文献 (配布資料は、教員が作成した資料などを指します)	<input type="checkbox"/> 教科書 <input checked="" type="checkbox"/> 参考文献 <input type="checkbox"/> 配布資料(PDFやワードファイルなど)	具体的に、別添資料参照	参考文献リスト	
19	9	前提条件 (前提科目などがあるか)	どちらか選択してください <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	ありの場合は下記から選択してください <input type="checkbox"/> 前提科目 <input type="checkbox"/> 前提テスト		
20			前提科目名:			
21	10	学習目標 (シラバスがある場合はシラバスからコピーしてください)	1. 人口に膾炙した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の諸活動や日本側に対応について正確な知識を得る。 2. 共時的、通時的なより広いコンテキストの中で、当時の日本による捕虜待遇や捕虜に関わる日独文化交流を位置づける。			
22	11	評価方法 (期末テストや毎回のテスト、ディスカッションなどどのように評価を考えているかを書いてください。シラバスがある場合はシラバスからコピーしてください)	<input checked="" type="checkbox"/> 毎回課すもの <input type="checkbox"/> 小レポート(個人提出)	概要と配点	評価シート	
23			<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板を用いたディスカッション <input type="checkbox"/> その他	指定文献を読んだかどうかの確認問題。20点。 指定文献の感想を書かせて相互コメント。2点×15回＝30点		
24						
25						
26						

27		■ブロック毎・期末等に課すもの		
28		<input checked="" type="checkbox"/> 試験	期末試験。70点。	
29		<input type="checkbox"/> その他		
30	12 学修の進め方	学習の進め方としてイメージしているものがありましたら下記から選んでください。 <input type="checkbox"/> (1) イントロビデオ+教科書等の学習+ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> (2) 教科書等の学習+まとめビデオ+ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> (3) 教科書等の学習+ディスカッション+内容確認小テスト		授業回によっては、たまに小テストを課す
31		各回の進め方に関する説明  毎回の授業では、指定文献の指示、要点をまとめたビデオ(15分程度)×2～3本、小課題を用意しています。最初に小課題の内容を確認してから、指定文献とビデオを見ると、その回のポイントが分かりやすいです。  小課題では、指定文献とビデオの感想を投稿し、意見交換を行います。意見交換によって自分では気づかなかった視点を得ることは、より深い学びにつながります。受講者同士でお互いを高めあえるよう、積極的に発言しましょう。		
32	13 教材の見せ方 (eラーニングでは学習の進め方やスケジューリングに柔軟性をあたえられるように、纏めて教材を開くことをお勧めします)	一つ選んでください <input checked="" type="radio"/> 全て初めに開く(全回を一度に見せる (補足)学修自由度の最も高い型) <input type="radio"/> ブロックごとに開く(数回でまとまりを作って見せる (補足)学修自由度の高い型) <input type="radio"/> (毎回)		
33	14 スケジュール	スケジュールに関する説明 毎回の小課題は、締切日時を過ぎても提出を受け付けますが、減点される場合があります。定期試験は、締切日時を過ぎた場合は、原則受け付けません。 以下にスケジュールを示しますので、自分なりに学習スケジュールを立て、計画的に進めてください。		スケジュールシート
34	15 その他の注意事項 (学生に知らせたいことを書いてください)	「ビデオが見れない」「課題の提出方法がわからない」など、学修を進めるうえで困ったことが起こったら、何でも気軽にサポート室までメールでご連絡ください。なお、土日祝日のメールに対しては、返信が遅くなりますのでご了承ください。		
35	16 授業回タイトルと内容	授業の回構成について、ドラフトで結構ですので書いてください  1. 導入。板東の遺跡を訪れる。 2. 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。 3. ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。 4. 九州の収容所(久留米、福岡、熊本、大分)。 5. 中国・近畿の収容所(姫路、青野ヶ原、似の島、大阪) 6. 関東・東海の収容所(名古屋、静岡、東京、習志野) 7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン? 8. 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。 9. 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツアイガー』 10. 板東収容所(1)。収容所新聞『ディ・バラック』。活発な音楽活動。 11. 板東収容所(2)。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。 12. 日本に関わった元捕虜。ポーネル先生とマイスナー。 13. 佛国の終結と船内新聞『佛国航』。交流の復活。 14. 捕虜待遇の歴史(世界) 15. 捕虜待遇の歴史(日本)。捕虜と「武士道」。		

やってみよう!

「オンライン授業設計シート:ガイダンスページ設計書」に記入してください。シラバスがある場合は、必要に応じてコピー＆ペーストしてください。



## ステップ 2

### 各回の授業を考える

#### 解説

ガイダンスページの設計を踏まえて、各回の活動とコンテンツ(教材)を具体的に設計していきましょう。大きく分けて、「導入部分」と「各回部分」の2つのセクションについて、何を用意するか考えます。

#### 【コンテンツ開発指示書の導入部分】

##### ■ ガイダンスページ【必須】

ステップ1で作成したシートがあれば、ガイダンスはコピー&ペーストですぐに作成できます。ガイダンスの中に、学生に顔を見せて挨拶する「イントロビデオ」、開講日時や課題の締切日時を示す「スケジュール表」などを盛り込むかどうか検討してください。

##### ■ 自主学修を促進するコンテンツ

- ◎ 参考情報【必須】:参考資料(PDFファイル、PowerPointファイル等の配布資料)、参考文献リスト、リンク集、コラムやアドバイスを掲示することが考えられます。
- ◎ オフィスアワー【必須】:学生がいつでも教員に質問できる環境を整えておきましょう。具体的に、学生とやり取りする手段を検討してください。もっとも簡単な方法はeメールです。一方で、随時質問が来るのは困る場合は、質問受付用の電子掲示板や時間を指定して行うチャットも考えられます。
- ◎ 前提学修教材【推奨】:履修する学生が前提となる基礎知識を満たしていないことが想定される場合、可能なら前提知識を学ぶ教材を別途用意するのが望ましいでしょう。
- ◎ 発展学修教材【推奨】:履修者の中には優秀な学生もいることが想定されます。そのような学生向けに、余裕があれば発展的な教材を用意することも検討しましょう。



以下は記入例です（詳しくは配布の Excel ファイルをご参照ください）。

8 【導入部分】								
	タイトル	活動カテゴリ	活動詳細	原稿タイプ	量	実装方法 ( Moodle の活動または リンク )	アクセス可能日	アクセス終了日
9	—	—	—	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—	—	—	—
11	—	—	—	—	—	—	—	—
12	ガイ ダ ン ス	ガイダンス ( 授業設計のオンライン+ オフ )	シラバス	Word ( PDF )	A4 用紙 2 ページ	PDF へリンク	開講日	特になし
13			イントロビデオ	PowerPoint	3 ページ ( 3 分 ) 程度	動画ファイルへリンク	開講日	特になし
14			授業概要	Word ( PDF )	シラバスから抜粋	HTML ページ	開講日	特になし
15			スケジュール	Excel	A4 用紙 2 ページ	HTML ページ	開講日	特になし
16	自 主 学 修 促 進	参考情報	単位取得要件	Word ( PDF )	シラバスから抜粋	HTML ページ	開講日	特になし
17			参考資料	—	—	—	—	—
18			文献一覧・リンク集	Word ( PDF )	A4 用紙 2 ページ	PDF へリンク	開講日	特になし
19			コラム・アドバイス	—	—	—	—	—
20			その他	—	—	—	—	—
21			小テスト	—	—	—	—	—
22			前課字帖 ( 授業設計のオンライン+ オフ )	小レポート	—	—	—	—
23			電子掲示板	—	—	—	—	—
24			その他	—	—	—	—	—
25			小テスト	—	—	—	—	—
26			小レポート	—	—	—	—	—
27			電子掲示板	—	—	—	—	—
28			その他	—	—	—	—	—
29	自 主 学 修 促 進	オフィスアワー ( 授業設計のオンライン+ オフ )	メールアドレス	Word ( PDF )	シラバスから抜粋	コーストップページに	開講日	特になし
30			電子掲示板	—	—	—	—	—
31			協定時間チャット	—	—	—	—	—
32			その他	—	—	—	—	—

スケジュールについて			
以下にスケジュールを示しますので、自分なりに学習スケジュールを立て、計画的に進めてください。			
回	講義タイトル	視聴開始日	小課題締切日
1	導入。板東を訪れる。	2015/11/6(金)	2015/11/13(金)
2	日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。		
3	ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。		
4	九州の収容所(久留米、福岡、熊本、大分)		2015/11/20(金)
5	中国・近畿の収容所(姫路、青野原、似島、大阪)		
6	関東・東海の収容所(名古屋、静岡、東京、習志野)		2015/11/27(金)
7	松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。庶民はナプン?	2015/11/27(金)	2015/12/4(金)
8	丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。		2015/12/11(金)
9	徳島収容所。収容所新聞『クシマ・アンツァイガー』		
10	板東収容所(1)。収容所新聞『ディ・バラック』。活版屋音楽活動。		2015/12/18(金)
11	板東収容所(2)。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。		
12	日本に関わった元捕虜。ポーネルとマイスナー。		2015/12/25(金)
13	帰国の経緯と船内新聞『帰国船』。交流の復活。		
14	捕虜待遇の歴史(世界)		2016/1/19(火)
15	捕虜待遇の歴史(日本)。捕虜と「武士道」。		
	定期試験	2016/1/13(水)	2016/1/19(火)

## 【コンテンツ開発指示書の各回部分】

授業1回分の中で、最低でも以下の4つの要素のコンテンツを用意する必要があります。  
全て必須コンテンツです。

- 授業内容(情報提示コンテンツ):授業内容そのものを伝えるコンテンツです。文章や図表を読ませるなら文字情報(PDFファイル等)を用意します。一方で、近年の学生は動画を好みますから、ビデオを作ることも検討します。



- 学修活動コンテンツ:PDFファイルを配布したり、ビデオを見せたりするだけでは学びにつながりません。必ず学習者がアウトプットをする活動を入れてください。具体的には、小テストや小レポート、電子掲示板を用いたディスカッションなどです。



- 自主学修促進コンテンツ:学生の自己学修を促すコンテンツも用意しましょう。なお、導入部分にまとめて用意するなら、各回では省略してもよいでしょう。



- 評価コンテンツ:毎回の学修成果を評価するためのコンテンツを考えます。学修活動コンテンツと組み合わせて、それを毎回の評価にしてもよいでしょう。また、複数回の授業をまとめて「ブロック」を構成し、ブロック単位で大きめの課題を出すことも考えられます。たとえば、授業全体を2ブロックに分けて、前半ブロック終了後に「中間試験」、後半ブロック終了後(最終回)に「期末試験」を課すことなどが考えられます。



以下は記入例です（詳しくは配布のExcelファイルをご参照ください）。

33	【各回部分】											
34	ブロック	授業回	タイトル (シラバスより)	活動カテゴリ	活動詳細	原稿タイプ	量	実装方法 (Moodleの活動または別ソース)	アクセス可能日	アクセス終了日		
35	第1回			授業内容 (授業設計カ イラインページ)	文字							
36					音声							
37					動画	PowerPoint	20ページ(15分)×3	動画ファイルへリンク				
38					写真							
39					その他	Googleマップ	3か所	Googleマップへのリンク				
40				学修活動 (授業設計カ イラインページ)	小テスト							
41					電子掲示板	Word	課題指示文は10行	フォーラム				
42					その他							
43				自主学修促進 (授業設計カ イラインページ)	参考資料							
44					文献一覧・リンク集	Word(PDF)	各回には読まない(全体でA4用紙100ページ)					
45					コラム・アドバイス							
46					その他							
47	評価 (授業設計カ イラインページ)	試験										
48		レポート										
49		作品課題										
50		その他	毎回の電子掲示板へ提出された小レポートを評価									

[illegible]

なお、自分でコンテンツを開発しない場合は各回部分のコンテンツを詳細に決めて、開発スタッフへ渡す必要があります。もちろん、様々な制約から実際には開発が難しいコンテンツもありますから、授業1～2回分の案を作ったら一度開発スタッフに見せて、相談しながら詳細を詰めていってください。

自分でコンテンツを開発する場合も、とりあえず導入部分と授業1回分だけ設計してみましょう。ステップ3Bで授業1回分のコンテンツを実際につけてみて、設計通りうまく作れそうなら残りの授業回も同じように作ればよいでしょう。一方で、設計通りにはうまく開発できない場合は、ステップ2に戻ってきて改めて各回の授業設計をしましょう。

やってみよう!

「オンライン授業設計シート:コンテンツ開発指示書」に記入してください。シラバスがある場合は、基本情報の箇所はシラバスからコピー＆ペーストしてください。現時点でわからない箇所は空欄でも構いませんが、なるべく埋めてみましょう。





## ステップ 3A

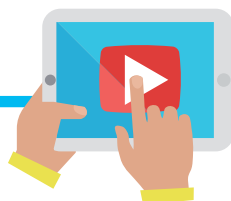
### 開発スタッフにコンテンツ案を伝える



シラバス、**オンライン授業設計シート**を開発スタッフに渡し、打ち合わせをしましょう。手始めに授業1～2回分のコンテンツを作る段取りを詰めていきましょう。

## ステップ 3B

### 授業1回分のコンテンツを開発する



自分でコンテンツを作る場合は、Moodleにある「テンプレート」をコピーして、必要箇所を修正しながらコンテンツを開発することができます。また、テンプレートの入力例である「サンプルコース」もありますので、適宜参照してください。

※テンプレートは以下から閲覧できます。

<http://atakahashi.sakura.ne.jp/27/>

ID

guestt01

PASS

guest-T01

※テンプレートをダウンロードしたい場合は、別途お問い合わせください。

高橋暁子(徳島大学) atakahashi@tokushima-u.ac.jp

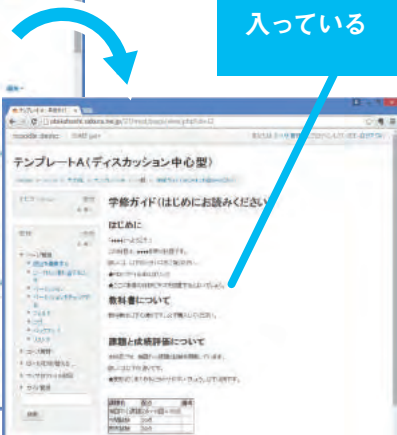
## テンプレート例

利用頻度が低そうな  
ブロックは非表示

ガイダンス準拠コン  
텐츠をあらかじめ  
設置(編集・複製をし  
てコンテンツを開発)



入力例、作成のポイ  
ントなどがあらかじめ  
入っている



## ステップ 4

### ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

#### 解 説

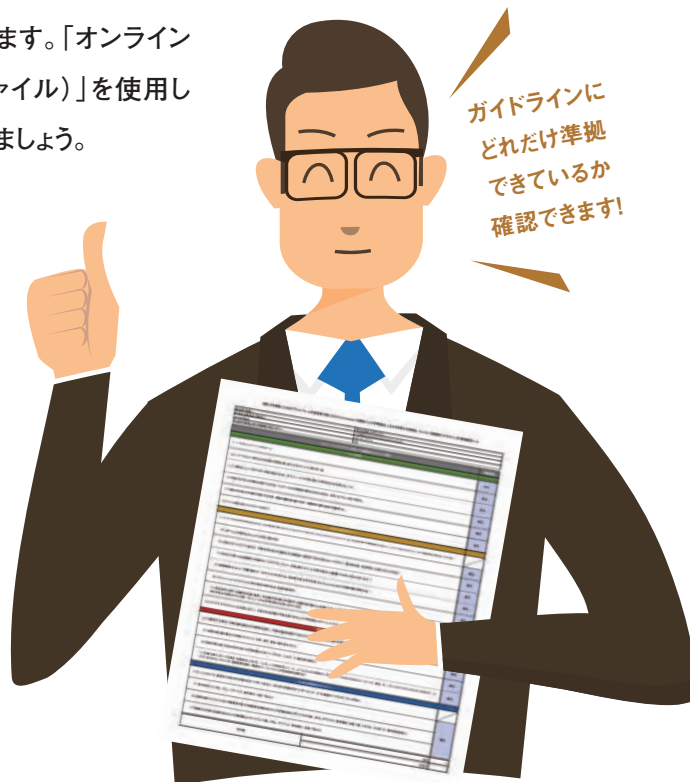
ここまで考えてきたオンライン授業が、「オンライン授業設計ガイドライン」に準じた質保証ができているかを検討します。「オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート(Excelファイル)」を使用して、自己チェックまたは誰かにチェックをしてもらいましょう。

確認シートを使う前に以下を用意してください。

**必須** 実際に開発したオンラインコース  
(開発途中で可)

**必須** 該当科目のシラバス

- ガイダンスページ設計書(もしあれば)
- コンテンツ開発指示書(もしあれば)



確認シートは、以下の6つのシートで構成されています。

**A** 「ここからスタート!」シートに入力

**B** 「コース全体」シートに入力

**C** 「ガイダンスコンテンツ」シートに入力

**D** 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シートに入力

**E** 「確認結果」シートに結果が出る!

**F**

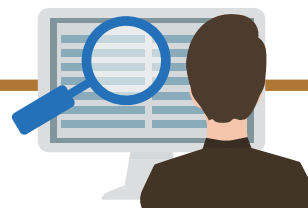
「ガイドライン」シートで  
ガイドライン本文を  
チェック!

A～Dのシートに必要項目  
を入力すると、Eのシート  
でガイドラインに準拠して  
いるかが確認できます。  
Fのシートはガイドライン  
全文ですので、必要に応  
じて参照してください。

## ステップ 4

## ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

### A 「ここからスタート!」シート



最初に「ここからスタート!」シートを開き、科目名等の基本情報を  
入力します。

入力が終わったら、「コース全体」シートへ進みます。

科目名(年度)、科目担当教  
員名(連絡先)、シート作成  
日、確認者を入力

#### 記入の手引き

本シートから記入を始め、「コース全体」「ガイダンスコンテンツ」「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」の各シートに順番に記入すると、自動的に「確認結果シート」に確認結果が入力されます。「確認結果シート」の内容を確認し、このエクセルファイル全体をご提出ください。

1. 科目名等、コースの基本情報を黄色のセルに入力してください。  
⇒黄色のセルは必須入力項目です。入力すると色が消えます。

科目名(年度)	学びの統合入門(2016)
科目担当教員名(連絡先)	竹岡薫永(atakeoka[at]kochi-u.ac.jp)
シート作成日	2016/12/14
科目担当教員以外の確認者(名前・日付)	なし

2. 「コース全体」シートに記入してください。

[コース全体](#)

3. 「ガイダンスコンテンツ」シートに記入してください。

[ガイダンスコンテンツ](#)

4. 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」に記入してください。

[授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ](#)

クリックで該当シートが表示

科目担当教員が本シートに  
入力している場合は「NA  
(該当なし)」等を入力

## ステップ 4

## ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

### B 「コース全体」シート

薄い黄色のセル((1)コースのURL、(2)モジュール数、(6)シラバスの有無)は必須項目です。水色のセル(コメント)はオプション項目です。

入力が終わったら、「ガイダンスコンテンツ」シートへ進みます。

#### コース全体

下記の(1)～(6)に回答してください。

⇒黄色のセルは必須入力項目、水色のセルはオプション入力項目です。入力すると色が消えます。

◆ (1) 1科目ごとに1コースを用いる。	
	コースのURLを記入してください。 ※まだ設定されていない場合は、空白のままにしてください。 <input type="text" value="https://moodle.cc.kochi-u.ac.jp/2016/course/view.php?id=4562"/>
◆ (2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。	
	モジュール数(授業回数)を記入してください。 <input type="text" value="16"/>
◆ (3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。[viii]	
	⇒ここでは記入せずに「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シートで記入します。
◆ (4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。	
	⇒ここでは記入せずに「ガイダンスコンテンツ」シートで記入します。
◆ (5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、学修期間(締切日時)を設定する。	
	⇒ここでは記入せずに「ガイダンスコンテンツ」シートで記入します。
◆ (6) コース導入部分にはシラバスを示す。	
	Moodleのコース上に知ブラ5大学共通シラバスが掲載されていますか? ※ない場合は、空白のままにしてください。 <input type="text" value="ある"/>
◆ ※(1)～(6)についてコメントがあれば記入してください。	
	コメント <input type="text" value="授業回の第16回は全体の振り返りのためのまとめ回とする。"/>

⇒記入が終わったら「ガイダンスコンテンツ」シートへ進んでください。



## ステップ 4

## ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

### C 「ガイダンスコンテンツ」シート

必須項目である、薄い黄色のセルに入力します。水色のセルはオプション項目です。

入力が終わったら、「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シートへ進みます。

#### ガイダンスコンテンツ

下記の(7)～(8)に回答してください。

→黄色のセルは必須入力項目、水色のセルはオプション入力項目です。入力すると色が変えます。

- (7) シラバスの内容を簡潔にするため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学習者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回示しても良い。

- イ) eラーニング等様々な学習環境の使い分け

Moodleのコース上に掲載した際の使い分けを記入してください。

※必ずしも記入する必要はないが、記入すると良い。

elmenab[at]kochi-u.ac.jp

- ロ) 対面のオフィスアワー担当の、手帳が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段(eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど)

Moodleのコース上に設定した質問手段を記入してください。

※必ずしも記入する必要はないが、記入すると良い。

電子掲示板

その他を記入する場合の手段を記入してください。

- ハ) 科目担当教員による授業紹介(印刷のイントロビデオ、または、写真と紹介文で、担当者の顔を見せ動機づけを促す目的を持つもの)

授業紹介の方法を選んでください。

※必ずしも記入する必要はないが、記入すると良い。

その他

イントロビデオの撮影方法も記入してください。

※必ずしも記入する必要はないが、記入すると良い。

授業の進め方の紹介のみ(科目担当教員の顔は見せない)

- ニ) 授業概要(タイトル、単位の進め方、コンテンツの利用方法、教科書学習・ビデオ学習・ディスカッションなどの学習活動の実施方法)

授業概要の中に以下の項目が書かれていますか?

タイトル

ある

単位の進め方

ある

コンテンツの利用方法

ある

学習活動の実施方法

ある

※以下の(表)詳細記入用に、「授業概要」の詳細を記入してください。

- ホ) スケジュール(コンテンツの公開日時及び締切日時、推奨学習期間)

※モジュールとブロックの関係については右図をご覧ください。

※以下の(表)詳細記入用に、「スケジュール」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

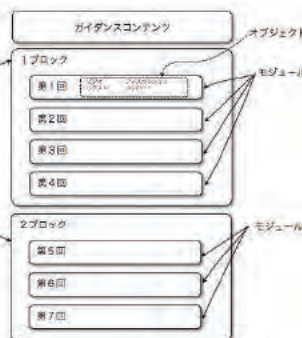
※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細を記入してください。

ブロック



↓↓↓授業概要と評価について以下に詳細を記入してください。(図表を使用している場合は、画面キャプチャ等の画像でも結構です)↓↓↓

●授業概要

↓↓授業概要と評価について以下に詳細を記入してください。(図表を使用している場合は、画面キャプチャ等の画像でも結構です)↓↓

#### ●授業概要

##### ①学習目標

★学習の進め方★(一まずこれを確認しましょう！)

##### 学習の進め方

・授業内容などの質問や感想があれば、一人で悩まずに、すぐに「質問・相談」はこちらへ止働き込んで下さい。授業方法などは、この科目科目を取っている仲間と相談するのも良いでしょう。  
・この科目は、他科目で課されるレポート作成を題材に、学び方を学びます。他科目のレポートを提出したあとに、そのレポートについてのレポートを提出してもらいます。このことを食器において、学習計画を立てましょう。  
・上巻の授業準備期間内に学習ができそうにない場合は、メールでご相談ください。例えば、アルバイトで休むと並や遅れると並に連絡をするのと同じです。ただし、成績入力期限が決まっているため、最終の締切日は2月13日を過ぎることはできません。それ以降も、学習はできますが、単位として認定することはできませんのでご了承ください。

##### コンテンツの利用方法

・ゼミリングです。いつでもどこからでも取り戻せます。  
・自分で計画を立て、自律的に進めていく必要があります。  
・ビデオ視聴はほとんどありませんが、自分の手を動かす必要があります。  
・この科目は後入生を対象にしていますが、2年生以上の人ももちろん参加できます。

##### 学習活動の進め方

コンテンツの利用方法と同じスケジュールも参照してください。

#### ②評価

##### 成績評価対象と評価基準

【タスク】(2016/1/10) 最終タスクは授業概要の授業に提出します。  
※このタスクは「課題」があります。【タスク】と表示しています。  
これらのすべてを行ってください。すべてが終わると、【課題】を提出しても評価を行います。  
なお、各タスクの「Passの条件」を満たしていない場合は、【タスク】を行ったことにはなりませんのでご注意ください。  
【課題】  
【課題】は3つあります。【課題】と表示しています。  
2月13日(月)9:00までにすべての課題を提出してください。  
この日までに提出された3つの課題の合計点がこの科目の得点となります。  
【課題1】(第5回に提出) 自分だけのノートを取り方によって取ったノートの得点 30点  
【課題2】(第11回に提出) 自分だけの授業準備方法で取った授業準備一冊の得点 30点  
【課題3】(第15回に提出) 他科目の課題として作成したレポートのどこかどうするかの報告 40点  
※【タスク1】【課題】の中に授業の記録(自分で書いていく)に、行ったかのように見せかけることなどがあれば、【課題】の提出があっても評価を行いません。  
※2016/1/10 課題: 各課題でそれぞれ60点以上取得すると合格となります。

◆ ※(7)～(8)についてコメントがあれば記入してください。

##### コメント

⇒記入がなかったら「授業コンテンツと自主的な活動促進コンテンツ」シートへ記入してください。

## ステップ 4

## ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

### D 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シート

必須項目である、薄い黄色のセルに入力します。水色のセルはオプション項目です。

授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ

下記の(9)～(10)、および(3)に回答してください。

⇒黄色のセルは必須入力項目、水色のセルはオプション項目です。入力すると色が消えます。

◆ (9) 学習者が主体的に学習活動を進められる環境を提供し、学習の達成を確認できるようにすることにより授業質と同等の質を担保する。そのため、1モジュール(授業1回分)には以下の内容を含める。

イ) 授業内容(教科書などの情報コンテンツ)、文字、音声、動画、静止画など【※】

※教科書やMoodle上に書かれた読み物など

※以下(表)詳細記入欄に「※」を記入し、その欄に「※」で示す授業内容の情報を記入してください。

ロ) 授業内容に関する双方向性を育した学習活動コンテンツ(小テスト、小レポート、電子掲示板など)

※教科書やMoodle上に書かれた読み物など

電子掲示板

※以下(表)詳細記入欄に「※」を記入し、その欄に「※」で示す学習活動の情報を記入してください。

ハ) 学習活動コンテンツの要件: 合格条件(小テスト・小レポートの合格点など)、フィードバック方法(自動採点、手動採点、学生同士の相互フィードバック、教員・ティーチングアシスタントからの1件毎のフィードバック・まとめフィードバック、模範解答の提示、解説など)、フィードバック実施期間の設定など

※以下(表)詳細記入欄に「※」を記入し、その欄に「※」で示す学習活動の情報を記入してください。

※以下(表)詳細記入欄に「※」を記入し、その欄に「※」で示す学習活動の情報を記入してください。

◆ (10) コース内には、授業外の自主的な学習を促すコンテンツを示す。自主的な学習を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。

イ) 参考情報(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)

※教科書やMoodle上に書かれた読み物など

リンク集

※以下(表)詳細記入欄に「※」を記入し、その欄に「※」で示す参考情報の情報を記入してください。

ロ) 授業内容についていない学習者を対象とする復習の支援を目的とした学習活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート)

※教科書やMoodle上に書かれた読み物など

※以下(表)詳細記入欄に「※」を記入し、その欄に「※」で示す学習活動の情報を記入してください。

ハ) 発展的な学習の支援を目的とした学習活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)

※教科書やMoodle上に書かれた読み物など

リンク集

※以下(表)詳細記入欄に「※」を記入し、その欄に「※」で示す学習活動の情報を記入してください。

◆ (3) 学習者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学習に要する時間をおおむね推定する。【※】

※下記の(表)詳細記入欄に記入後、各回の学習時間をおおむね推定する時間をおおむね推定してください。

※以下の(表)詳細記入欄に記入後、各回の学習時間をおおむね推定する時間をおおむね推定してください。

おおよそ推定する

※以下(表)詳細記入欄に記入後、各回の学習時間をおおむね推定する時間をおおむね推定してください。

※以下(表)詳細記入欄に記入後、各回の学習時間をおおむね推定する時間をおおむね推定してください。

すべての授業回について、  
どのようなコンテンツを用い  
ているか入力

		(9) 双方向性学習活動の要件			
		(合格条件)	(フィードバック方法)	(フィードバック実施期間)	
第1回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)	文字(教科書やMoodle上に書かれた読み物など)			
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)	小テスト 電子掲示板	合格条件は未設定 評価条件を明示	自動採点 学生同士の相互フィードバック	設定あり 設定あり
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3) おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)	60分			
第2回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)	文字(教科書やMoodle上に書かれた読み物など)			
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)	電子掲示板	合格条件を明示	学生同士の相互フィードバック	設定あり
	(10)イ) 参考情報	コラム			
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3) おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)	90分			
第3回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)	文字(教科書やMoodle上に書かれた読み物など)			
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)	電子掲示板	合格条件を明示	学生同士の相互フィードバック	設定あり
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3) おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)	90分			



科目名	授業内容	電子掲示板	合格条件を明示	学生同士の相互フィードバック	設定あり
第11回	(9)C)双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)	電子掲示板 小レポート	合格条件を明示 合格条件を明示	学生同士の相互フィードバック 自動採点	設定あり 設定あり
	(10)イ)学習情報				
	(10)ロ)履修				
	(10)ハ)発展学習				
	(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)	120分			
第12回	(9)イ)授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)C)双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)	電子掲示板	合格条件を明示	学生同士の相互フィードバック	設定あり
	(10)イ)学習情報				
	(10)ロ)履修				
	(10)ハ)発展学習	リンク集			
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)	120分				
第13回	(9)イ)授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)C)双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)	電子掲示板	合格条件を明示	学生同士の相互フィードバック	設定あり
	(10)イ)学習情報				
	(10)ロ)履修				
	(10)ハ)発展学習	リンク集			
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)	120分				
第14回	(9)イ)授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)C)双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)	電子掲示板	合格条件を明示	学生同士の相互フィードバック	設定あり
	(10)イ)学習情報				
	(10)ロ)履修				
	(10)ハ)発展学習	リンク集			
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)	120分				
第15回	(9)イ)授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)C)双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)	電子掲示板 小レポート	合格条件を明示 合格条件を明示	学生同士の相互フィードバック 自動採点	設定あり 設定あり
	(10)イ)学習情報				
	(10)ロ)履修				
	(10)ハ)発展学習				
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)	120分				
まとめ回	(9)イ)授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)C)双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)	小テスト 電子掲示板	合格条件は未設定 合格条件を明示	自動採点 学生同士の相互フィードバック	設定あり 設定あり
	(10)イ)学習情報				
	(10)ロ)履修				
	(10)ハ)発展学習				
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)	60分				
第16回	(9)イ)授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)C)双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ)学習情報				
	(10)ロ)履修				
	(10)ハ)発展学習				
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)					

◆ ※(9)～(10)についてコメントがあれば記入してください。

コメント

学習時間に他科目のノート作成を入れた。時間をもっと長くなる(他科目の授業で作成したノート提出するタスクがあるため)

※お疲れさまでした。記入が済むと「履修終了シート」へ進んでください。



## ステップ 4

## ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

### E 「確認結果」シート

A～Dのシートを入力した後、E「確認結果」シートを表示すると、ガイドライン準拠状況が確認できます。

西国5大学連携による協同プラットフォーム形成事業「西国におけるKnowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」オンライン授業設計ガイドライン(案)準拠確認シート

科目名(年度)	学びの総合入門(2016)
科目担当教員名(連絡先)	竹岡真希(atakeeksi@kochi-u.ac.jp)
シート作成日	2016/12/14
科目担当教員以外の確認者(名前・日付)	なし

「フルラーニングコンテンツ」を用いた授業設計上のチェック項目		確認結果
コース全体		
(1) 1科目ごとにコースを用いる。		達成
(2) 1コースには一般的な対面授業の実施形態に相当するモジュールが数を用いる。		達成
(3) 学習者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学習に必要な時間をおおむね定める。[x]		達成
(4) 数回分のまとめ学習を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。		達成
(5) 数回分のまとめ学習を可能とするため、授業学習期間を設けるか、学習期間(単位日時)を設定する。		達成
(6) コース導入部分にはシラバスを添付する。		達成
ガイダンスコンテンツ		
(7) シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学習者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に提示しても良い。		達成
イ) eラーニング操作などについての問い合わせ先		達成
ロ) 授業のオフィスアワー担当、学習者が科目担当教員または補佐員へ質問ができる手段(メールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど)		達成
ハ) 科目担当者による授業紹介(授業のイメージビデオ、または写真と紹介文で、担当者の顔を見せつつ説明を促す資料を持つもの)		達成
ニ) 授業概要(タイトル、学習の進め方、コンテンツの利用方法、教科書・参考書、ビデオ学習、ディスカッションなどの学習活動の実施方法)		達成
ホ) スタジール(コンテンツの公開日時及び終了日時、授業学習期間)		達成
ヘ) 単位取得の条件(成績評価対象(授業)、各成績評価対象の評価基準(成績評価対象となる試験・レポート作成課題などがそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは6割以上の基準点を定めた場合はその点数)、モジュール内の学習活動が出席に相当する旨)		達成
(8) ガイダンスコンテンツには必要に応じて、授業の前段階の学習支援を目的とした学習活動コンテンツ(小テスト、小レポートなど)を含める。		達成
授業コンテンツ		
(9) 学習者が主体的に学習活動を進められる環境を整え、学習の達成を確実できることにより対面授業と同等の質を確保する。そのため、1モジュール(授業1回分)には以下の内容を含める。		達成
イ) 授業内容(教科書などの情報コンテンツ) 文字、音声、動画、静止画など[x]		達成
ロ) 授業内容に関する双方向性を有した学習活動コンテンツ(小テスト、小レポート、電子掲示板など)		達成
ハ) 学習活動コンテンツの要素: 各教科書(小テスト/レポートの各観点など)、フィードバック方法(自動採点、手動採点、学生同士や互フィードバック、教員・ラーニングアシスタントからの1対1のフィードバック)などのフィードバック、質問解答の提示、解説など、フィードバック実施開始の設定など		達成
自主的な学習を促すコンテンツ		
(10) コース内には、授業外の自主的な学習を促すコンテンツを示す。自主的な学習を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。		達成
イ) 参考情報(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)		達成
ロ) 授業内容についてより深い学習を促すための学習の支援を目的とした学習活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート、電子掲示板など)		達成
ハ) 発展的な学習の支援を目的とした学習活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)		達成
合計数	達成	17
	未達成	0

最終的には、本ページを印刷・共有し、本ファイルはエビデンスとして保管しておきましょう。

やってみよう!

作成したコンテンツ、シラバス、ガイダンスページ設計書、コンテンツ開発指示書等を見ながら、「オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート」に記入しましょう。ガイドラインに沿ったコンテンツなのか、漏れはないのを自己チェックしてください。

## F 「ガイドライン」シート（参考）

オンライン授業設計ガイドライン全文を掲載しています。ガイドラインの内容を確認したいときに参照してください。入力項目はありません。

以降では、参考までにガイドラインの設計意図を解説します。

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」 オンライン授業設計ガイドライン

### 1. eラーニングコンテンツの範囲

- (1) このガイドラインで取扱う「eラーニングコンテンツ（以下、「コンテンツ」という。）」とは、大学連携e-Learning 教育支援センター四国が知のプラットフォーム形成事業に関する教材を開発し、運用するものを指す。<sup>[i] [iii]</sup>

▶本ガイドラインは、大学連携e-Learning 教育支援センター四国が知のプラットフォーム形成事業で開発したコンテンツを対象としています。一方で、高等教育機関で使用するコンテンツ全般に適用することも可能です。

### 2. eラーニングコンテンツの定義

- (1) 単独で利用可能な最小単位の教材を「オブジェクト」という。<sup>[iii]</sup>
- (2) 複数オブジェクトを組み合わせて構成されたコンテンツ群を「モジュール」という。1モジュールは授業1回分に相当する。
- (3) 複数のモジュール、つまり授業数回分をまとめた単位を「ブロック」という。ブロックは、授業の構成を分かりやすく伝えるために科目構成に応じて用いる。<sup>[iv]</sup>
- (4) 複数のモジュールまたは複数のブロックで1コースを構成する。1コースとは、単位付与の基準に相当する学修活動を満たすモジュール（またはブロック）群のことである。<sup>[v]</sup>

▶ガイドラインで用いる用語の定義です。大きさは、コース>ブロック>モジュール>オブジェクトになります。以下の関係図も参考にしてください。

[i] 知のプラットフォーム形成事業のシステム基盤を用いたとしても、共同実施ではなく、各大学が単独で実施する科目は対象外とする。

[ii] フルオンライン以外の形態の授業におけるコンテンツの利用を妨げるものではない。

ただし、利用に当たってはコンテンツの著作権者の許諾の範囲において利用する。

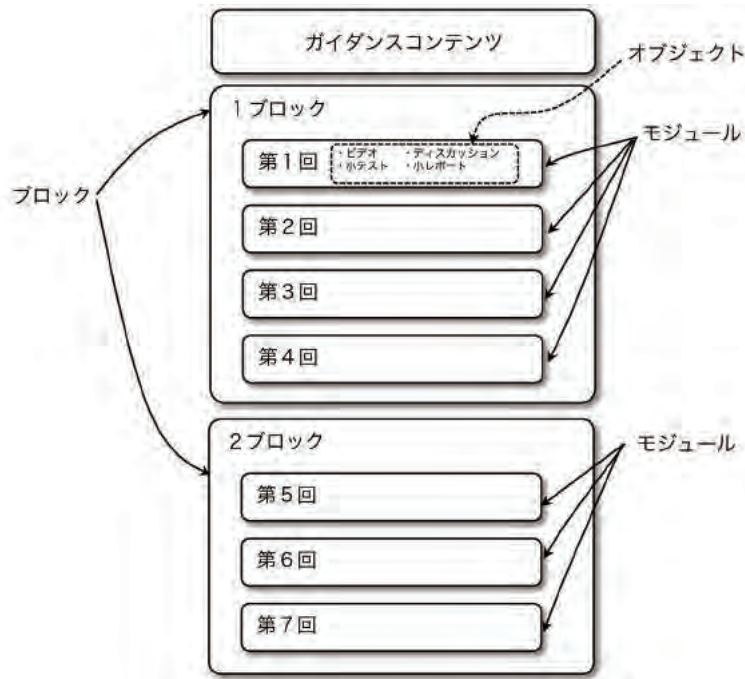
[iii] VOD、PDFファイル、電子掲示板が設置されていた場合は、それぞれ単独で利用することが可能なため3オブジェクトとみなす。

複数ファイルで構成することで意味のある教材として利用できる場合は、まとめて1オブジェクトとみなす

（たとえば複数のHTML・CSS・画像ファイルなどで構成されるWebページ）。

[iv] たとえば、1ブロックがモジュール1～5、2ブロックがモジュール6～10、3ブロックがモジュール11～15という3ブロックで構成する。

[v] たとえば1単位を付与するのであれば、1コースには45時間の学修活動を行うことになるだけのモジュール数を用意する。



### 3. 成績判定

(1) モジュールに含まれる学修活動<sup>[vi]</sup>は出席に相当する。全モジュール内の学修活動を一定以上<sup>[vii]</sup>実施・提出することで学業成績の判定要件を満たす。

▶近年の大学教育(対面授業)では、出席点はありません。オンライン教育においても、単にコンテンツを閲覧しただけでは成績に反映させません。とはいえ、できるだけすべてのコンテンツで学んでほしいため、3分の2以上の学習活動を行うことで「出席」とみなし、成績に反映される最終レポートの提出資格や期末試験の受験資格を得られるようにします。

(2) 成績はモジュールに含まれる学修活動とそれ以外の学修成果(試験・レポート・作品課題など)の組み合わせで評価する。評価対象となる試験・レポート・作品課題などはそれぞれにおいて6割以上の点数を取得することで単位取得の最低条件とする。これによってすべての学修成果物で一定以上の成果を収めていることを確認する。

▶毎回の授業に含まれる学修活動(ミニレポートや小テストなど)と、それ以外の学修活動(試験・レポート・作品課題など)の成績を組み合わせで評価します。つまり、期末試験だけで成績評価が行われるような「一発評価」が無いようにします。成績評価のチャンスを複数作ることで、学生が目標に向かって一歩ずつ達成感を味わう「動機づけ」の効果が期待できます。また、毎回の授業には参加せず、最後に試験だけを受験するような学生を防ぐことにもつながります。

[vi] 4.eラーニングコンテンツを用いた授業設計(9)口を指す。

[vii] 各大学または各学部において出席数に関する規則がある際は準拠する。

成績評価において、非常に出来が悪かった場合、どうされますか。即、「不合格(単位を与えない)」とするよりも、「再提出要求」を出して、やり直しのチャンスを与えてはいかがでしょうか。

たとえば、eラーニングの小テストであれば何度でも受験可能とし、最高点を成績に反映させる設定にします。

また、レポートであれば、最低限の要件を満たしていないものは一定期間に再提出すれば成績に反映させるようにします。教員が何度も採点する手間を軽減するには、レポート提出前に「仮提出」をして学生同士でレビューする機会を設けるとか、最低限の要件を満たしているかを自己チェックする「チェックリスト」を配布しておく、といった作戦が使えます。余裕があれば、教員から「合格レベルだがもっと良くなるにはこうしてはどうか」というアドバイスを返却し、さらに良い成績になる機会を与えるのもお勧めです。

再提出要求を導入すると、学生にとっては成績評価のチャンスがさらに拡大し、結果的によく学ぶことになります。

▶ 評価対象となる試験・レポート・作品課題などは、「それぞれ6割」以上の得点を得ないと、単位を出しません。「合計で6割」ではないことに注意してください。これは、学習目標と評価の整合性をとることに繋がります。

たとえば学習目標が3つあり、評価対象となるレポートも目標に合わせて3つ用意したとします。レポートAを未提出だったら、レポートAに対応する学習目標Aは達成したとは言えないので、残りの2つのレポートを提出していたとしても単位は出しません。また、3つのレポートがそろっていても、6割に達しない出来の悪いレポートが1つあったら、対応する学習目標を達成していないと言えるので、単位を出しません。もしも3つのレポートの合計で6割以上としてしまうと、著しく出来の悪いレポートが1つあるのに(学習目標の一つが未達成なのに)、単位を出すことになってしまいます。このように、評価対象について「それぞれ6割以上」とすることで、単位を出すということは、すべての学習目標を最低限は達成していると言われます。

成績評価は「合計で6割」にし、1つぐらい出来が悪くても他でカバーできるようにして頑張っている学生には単位をあげたい、なんとか救済したい、と考えるお気持ちもよくわかります。しかし、学習目標に対応させた最低限の学修成果を確認し、先生方が自信をもって「学生は学んだ」と言えることが教育の質保証の第一歩です。複数の評価対象を「それぞれ6割」にすることは、学習目標と成績評価のズレを防ぐことにつながります。

また、あとから救済できるような評価方法にしておくのではなく、最低限の単位取得要件を「学生が普通に努力すれば達成できる程度」に抑えて、最初から学生に示しておくことをお勧めします。ガイドラインでは最低限の単位取得要件を事前に学生に提示することになっています。高すぎる要件にならないよう、注意して設定してください。また、毎回の学修活動の合格条件を明示することになっています。毎回の学修活動を成績に反映させる際には、こちらの合格条件もあり厳しくならないよう配慮しましょう。



#### 4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計

(1) 1科目ごとに1コースを用いる。

▶ 1科目につき、eラーニングでは1コースを作ります。用語の定義の関係図も参照してください。

(2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。

▶ 対面授業で15回分であれば、eラーニングでも15個のモジュールを用意します。用語の定義の関係図も参照してください。

(3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。<sup>[viii]</sup>

▶ 対面授業は、1回90分、60分など決まっていると思います。eラーニングでも、毎回同程度の学修時間となるように揃えることで、学びやすくなります。短時間で終わる簡単な回や、逆に非常に時間がかかる回を作ることを避けます。

(4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。

▶ 授業数回分を「ブロック」としてまとめ、ブロック毎に公開していくことで、複数回のまとめ学修も可能とします。時間に制約されず、学生がある程度柔軟に「いつでも」学べるようにすることは、eラーニングならではのメリットです。

(5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、学修期間（締切日時）を設定する。

▶ ブロック毎に公開しない（たとえば学習開始時にすべてのコンテンツを公開する）場合にも、学生に「推奨学修期間」を提示したり、いくつか課題の締切日に余裕を持たせてまとめて設定したりすることで、まとめ学修がしやすくなります。これも、学生が自分でスケジューリングをしていつでも学べる環境づくりにつながります。

(6) コース導入部分にはシラバスを示す。

▶ コースの導入にシラバスを示すことで、学生が授業の全体像をつかむことが出来ます。

[viii] たとえば対面授業で1単位の授業科目を15回で実施していた場合は、1コースに15回分のモジュールを用意し、1モジュールは3時間分の学修活動に相当するコンテンツを用意する。過度に負荷が高すぎたり、容易すぎたりするモジュールを用意しない。

(7) シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学修者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回示しても良い。

イ) eラーニング操作などについての問い合わせ先

ロ) 対面のオフィスアワー相当の、学修者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段(eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど)

ハ) 科目担当者による授業紹介(短編のイントロビデオ、または、写真と紹介文で、担当者の顔を見せ動機づけを促す目的を持つもの)

二) 授業概要(タイトル、学修の進め方、コンテンツの利用方法、教科書学習・ビデオ学習・ディスカッションなどの学修活動の実施方法)

ホ) スケジュール(コンテンツの公開日時及び締切日時、推奨学修期間)

ヘ) 単位取得の条件(成績評価対象(複数)、各成績評価対象の評価基準(成績評価対象となる試験・レポート・作品課題などがそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは6割以上の基準点を定めた場合はその点数)、モジュール内の学修活動が出席に相当する旨)

▶ シラバスでは不足しがちな情報を補完するため、ガイダンスページを作成します。ガイダンスページには、イ～ハの内容を掲載します。

◎ イ) については、eラーニングにはシステム上のトラブルがつきものです。可能な限り、お使いのeラーニングシステムについて詳しい担当者の問い合わせ先を記載します。

◎ ロ) では、学生がいつでも質問できる窓口を用意します。eメールアドレスが一般的ですが、必要に応じてその他の方法も検討します。

◎ ハ) については、ビデオや写真で最初に教員の顔を見せることをお勧めします。顔を見せながら簡単な授業紹介をすることで、学生が教員や科目に対して親近感をもつでしょう。

◎ 二) は、シラバスには記載しにくい細かい情報になります。非同期型のeラーニングでは、このような内容について学生から質問があってから回答するのではタイムラグが生じますので、事前に説明できることはすべて提示しておきます。

◎ ホ) のスケジュールを提示することで、学生は自分で学習計画を立てることが可能になります。

◎ ヘ) の単位取得条件は、シラバスに細かく記載している場合は転記で結構です。シラバスに詳細には記載していない場合は、必ず作成・掲示し、学生がeラーニングで本格的に学ぶ前に目を通せる状態にしておきます。

以上はすべて必須の内容です。漏れなくガイダンスページに含めます。

## コラム

### 『S(秀)』は簡単にださない

ガイダンスページの中でも重要なのは単位の取得条件です。

最低限の単位取得条件を「**学生が普通に努力すれば達成できる程度**」に抑えると、単位を取ることはそう難しくないでしょう。しかし、先生方が「本来はここまで学んでほしい」「これぐらい出来るようになってほしい」と考えるレベルはもっと上の場合も多いと思います。そこで、最低限の単位取得条件を設定すると同時に、それ以上の成績をつける基準も明確にし、学生に明示することをお勧めします。そして、「S(秀)」は素晴らしい学修成果を収めないと獲得できないようにしておく、いわゆる「ふきこぼれ」(落ちこぼれの反対)を防ぐことになります。頑張りたい学生はどこまでも頑張れる、やりがいのある授業を検討しましょう。

(8) ガイダンスコンテンツには必要に応じて、授業の前提知識の学修支援を目的とした学修活動コンテンツ(小テスト、小レポートなど)を含める。

▶授業の履修にあたって、前提となる知識がある場合(前提科目の指定がない場合)、本編が始まる前の位置に、前提知識の学修のためのコンテンツを用意します。前提科目を指定していたとしても、忘れている恐れがあるようでしたら、前提知識を復習するコンテンツや前提科目へのリンクなどを用意するとよいでしょう。

(9) 学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、学修の達成を確認できるようにすることにより対面授業と同等の質を担保する。そのため、1モジュール(授業1回分)には以下の内容を含める。

イ) 授業内容(教科書などの情報コンテンツ):文字、音声、動画、静止画など<sup>[ix]</sup>

ロ) 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ:小テスト、小レポート、電子掲示板など

ハ) 学修活動コンテンツの要件:合格条件(小テスト・小レポートの合格点など)、フィードバック方法(自動採点、手動採点、学生同士の相互フィードバック、教員・ティーチングアシスタントからの1件毎のフィードバック・まとめフィードバック、模範解答の掲示、解説など)、フィードバック実施期間の設定など

▶1モジュール(授業1回分)には、原則、「イ):授業内容」「ロ):学習活動コンテンツ」の2種類のコンテンツを用意します。「イ):授業内容」だけだと、情報のインプットだけになり、学生自身が考え、アウトプットする機会がないので、学習効果が見込めません。必ず「イ):授業内容」「ロ):学習活動コンテンツ」をセットで用意し、新たな知識を応用する機会を作ります。

また、「ロ):学習活動コンテンツ」を成績に反映させる場合は、必ず「合格条件」を明示します。小テストなら「○点以上で合格」、掲示板なら「新規投稿1件、他者へのコメント1件の合計2件の投稿で合格」といった形です。

さらに、「ロ):学習活動コンテンツ」は「双方向性を有した」ものですので、学生の回答に対する「フィードバックの方法」や「フィードバックのタイミング(実施期間の設定)」も示します。フィードバックは学生の動機づけに大きな影響を与えるものですので、いつ、だれが、どのように行うかよく検討してください。

[ix] 具体的には、テキストファイル、VOD、PDFファイルなど。



「イ:授業内容」を伝えるメディアとしては、ビデオを用いる方が多いでしょう。ビデオでは、教員の顔見せは必要でしょうか。

結論から言うと「常に顔を出す必要はない」です。教育メディア研究から、人は1度に大量の視覚情報を処理できないことがわかっています（能力の限界原理）。また、eラーニングコンテンツは、図とキーセンテンスを見せて、音声による説明を行うときに、最も意味を理解しやすいと言われています（たとえば永田・岡本 2010）。以上から、視覚情報として「学習内容そのもの（図やキーセンテンス）」と「教員の顔」の2つを提示すると、情報過多となり学習者の気を散らす可能性があります。一方で、たまに顔を見せることで学生に親近感を与えたり、マンネリ防止になったり、という効果は期待できるかもしれません。

永田奈央美・岡本敏雄（2010）音声付加による意味的関係性理解のメカニズムとシナジー効果—e-Learningコンテンツの構成を対象として、教育システム情報学会誌27(3), pp.244-253

「ロ:学習活動コンテンツ」ではフィードバックの設計が肝要です。しかし、必ずしも全学生に対して教員が個々にコメントをする必要もありません。ポイントは「即時フィードバック」です。なるべく早くフィードバックを返すことで、学生のやる気も高まりますし、学修効果も見込めます。

たとえば「小テスト」であれば、正誤判定が出来るものであればeラーニングシステムが即時解答できます。正誤判定ができない、文章を入力させるタイプの問題だったとしても、模範解答やよくある間違いなどを用意しておけば、学生の回答直後に表示させることは可能です。これはレポート提出でも同様です。また、掲示板を用いる（学生の投稿内容がクラス全員に見える）場合には、学生同士でコメントをさせたり、ティーチングアシスタントがコメントをしたりすることもフィードバックの一つです。教員がコメントを担当せざるを得ない場合も、まとめコメントを1件投稿するとか、各自に一言だけ（あるいは点数だけ）返すだけでも、まったくフィードバックをしないよりはかなり効果的です。このように、なるべく早く一次回答をして、じっくり添削する必要がある場合はあとから正式なコメントを返すことをお勧めします。

(10) コース内には、授業外の自主的な学修を促すコンテンツを示す。自主的な学修を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。

イ) 参考情報（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）

ロ) 授業内容についていけない学修者を対象とする復習の支援を目的とした学修活動コンテンツ（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート、電子掲示板など）

ハ) 発展的な学修の支援を目的とした学修活動コンテンツ（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）

▶ご存知のように大学設置基準第21条では、一単位は45時間分の学修を必要とする内容と定められています。そこで、大学の一般的な授業では、教室での講義90分だけではなく、講義の前後の予習・復習も含めて一単位あたり45時間分の学修になるよう設計されています。eラーニングも同様で、毎回の授業（モジュールに相当）だけでなく、自主的な学修を促すコンテンツを用意することで、一単位あたり45時間分の学修を必要とする内容になるよう設計します。そこで、イ～ハのいずれか1つ以上を用意します。毎回の授業（モジュール）の中に、毎回イ～ハに相当するコンテンツを用意することも考えられますし、モジュール外にまとめて用意することも考えられます。



## おわりに

ここまで進めてみて、ガイドラインに基づいたオンライン授業は開発できそうですか？途中で授業の不備に気づいた方も多いと思います。そんな時は、焦らず改善の道を探ってください。もし今年度は無理ならば、来年度以降に改善に取り組んでください。一度で完ぺきなコンテンツを開発することは難しいですが、何度か改善を加えることで、学生にとって学びやすいコンテンツに仕上がっていきます。

また、本書で示したガイドラインの要件を超える更なる工夫も大歓迎です。効果・効率・魅力のあるコンテンツが出来ましたら、我々にも情報共有をしていただければ幸いです。

## 付 録

- オンライン授業設計ガイドライン
- シラバステンプレート (Wordファイル)
- オンライン授業設計シート (Excelファイル)
- オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート (Excelファイル)

## 謝 辞

事例を提供して下さった先生方

宮崎 隆義先生 (徳島大学)

▶ ステップ0-1: サンプルA

深見 公雄先生 (高知大学)

▶ ステップ0-1: サンプルB

井戸 慶治先生 (徳島大学)

▶ ステップ0: シラバス例

▶ ステップ2: オンライン授業設計シート



オンラインではじめよう。

# ONLINE COURSE DESIGN GUIDEBOOK

オンライン授業設計ガイドブック

2017.2.28

## ■主な執筆章

根本淳子(愛媛大学) nemoto.junko.nu@ehime-u.ac.jp

▶ステップ0-2、ステップ1

竹岡篤永(高知大学) atakeoka@kochi-u.ac.jp

▶ステップ0-1(サンプルB)、ステップ4

高橋暁子(徳島大学) atakahashi@tokushima-u.ac.jp

▶ステップ0-1(サンプルA)、ステップ2

ステップ3、ステップ4(ガイドラインの解説)

